

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月27日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1290200078		
法人名	医療法人社団 有相会		
事業所名	グループホーム かしわい		
所在地	〒260-0041 千葉県千葉市花見川区柏井町1132-1 (電話) 047-480-2165		
評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働福祉センター5階		
訪問調査日	平成21年3月27日	評価確定日	6月2日

【情報提供票より】(21年3月21日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成20年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤	10 人, 非常勤 12 人, 常勤換算 16.4人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費15,000円理美容費など実費	
敷金	有(180,000円)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(120,000円)	有りの場合償却の有無	有(期間2年)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	550 円
	夕食	600 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 1,650円			

### (4) 利用者の概要(3月12日現在)

利用者人数	15 名	男性	4 名	女性	11 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.3 歳	最低	77 歳	最高	92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	最成病院、ゆうあいクリニック、デンタルクリニック
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成20年4月1日に開設したフレッシュなホームである。管理者・職員は、母体である医療法人社団有相会 最成病院からベテラン看護師長や、病棟で長く介護に従事してきた職員らが異動してきているため、全体的に落ち着いていて、安心感がある。敷地は広く、同法人のクリニックやデイケア、老人保健施設などがあり、介護度の低い人から高い人まで、一貫して利用できる体制が整っている。新築のホームは花と緑の木々に囲まれ、ホーム入口では黒いパグ犬が出迎えてくれる。入居者は優しく穏やかな表情でくつろいでいる様子が見受けられた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価は今回が初めてである。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者がこの1年を振り返って自己評価票を作成した。現場従業者一人ひとりの意見までは聴いていない。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 過去に5回開催した。参加者は町内会長、老人会会長、あんしんケアセンター晴山苑職員、民生委員、入居者家族、職員らである。内容はホームの運営報告と意見交換が中心であり、これまでに行事や病院の受診、ターミナルケアについて質問が寄せられ、ホームが回答を行った。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族には月に一度、入居者個々の様子を書いた手紙や写真、バイタルチェックの写しを送付している。また運営推進会議を通じて意見を聴取するようにしている。担当制も導入し、入居者それぞれに担当職員をたてたが、まだ家族と馴染みの関係になるまでには至っていない。家族会は作っていない状況である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 同地域に古くからある最成病院の系列施設であるということで、地域にはすんなりと受け入れられている。近隣の飲食店なども親切で、老人会・町内会会長とも親しい間柄である。民生委員や警察・消防などとも連携が取れている。

## 2. 評価結果 ( 詳細 )

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	穏やかな笑顔でいられる、一人ひとりに合った支援、地域での生活を支援、家族との交流などを理念とし、実践に励んでいる。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	穏やかな生活を大切にし、職員・家族にも話している。月1回のミーティングなどでも折に触れて理念に立ち返り、職員全員で意思統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元に古くからある最成病院の系列ということで、新設のホームであるが地域にすんなりと溶け込んでいる。町内会長、老人会会長らとも馴染みの関係であり、近隣の飲食店なども親切にしてくれるとのことである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価は今回が初めてである。自己評価票は、この1年を振り返って管理者が一人で記入した。		自己評価作成は、管理者・職員全員で話し合い、事業所の優れた点・改善が必要な点を共通認識する機会とすることが望まれる。外部評価結果は、全職員および運営推進会議等で公表し、サービス向上を図るに当たったの参考資料とすることが期待される。
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に1回の頻度で開催している。参加者は地域住民、あんしんケアセンター職員、利用者家族、ホーム職員らである。内容は、ホームの運営報告が中心で、その後意見交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険課、高齢施設課とは必要に応じて連絡をとっている。あんしんケアセンター晴山苑とは、運営推進会議などを通じて情報交換をしている。成年後見制度の利用もあるため、関連の行政窓口とも連携をとっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度、入居者個々の様子を書いた手紙・写真・バイタルチェックの写しを送付している。面会時・電話でも、随時職員が声かけをしている。金銭はトラブルを避けるため入居者の手元には置かず、買い物希望時はホームの立替払いとし、後日家族に請求している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望は随時、管理者や職員が聴き取りをしている。また運営推進会議の出欠ハガキに、自由記入欄を設け、意見等記載できるよう工夫している。家族会は作っていない状況である。		職員と家族の馴染みの関係が深まり、信頼感が強まることで、家族もより一層心を打ち明けられるようになると思われる。家族との関係性を強化するとともに、定期的な交流の機会を持つことの継続が望まれる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人ではいくつかの医療・介護施設を運営しているが、利用者への影響がないよう事業所間の異動は原則行っていない。新しい職員が入った場合には、顔を覚えてもらえるまで自己紹介をするなどの配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は資格を問わず、やる気のある人を、紹介などを通じて採用している。母体病院から異動してきたベテラン介護士が多く、特に内部勉強会などは行っていない。事業所開設時に採用した新入職員については、法人の研修や外部研修などに参加するよう促している。		新人・現任等、職員個々のスキルに合わせた目標設定と教育計画、全職員共通の勉強会、資格取得の支援など、人材育成を計画的に進めていくことが必要と思われる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県のグループホーム連絡会に参加することにより同業者との交流をもっている。また地域のグループホームの見学をしたこともある。これまでグループホームゆかりの里、グループホーム横戸などを見学させてもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	母体の病院や同じ敷地内のデイケアの利用から入居してきた人もおり、入居に際してそれほど混乱は生じていない状況である。新入居者の不安解消のため、家族に協力を要請することは原則、行わない方針である。ユニット間の垣根も作らないよう心掛けており、居心地のよい雰囲気作りに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者はそれぞれ、編み物、食事の準備や片付け、雑誌や新聞を読んだり、それぞれ役割や趣味を持ち、日々を過ごしている。出来る事・出来ない事は概ね把握しているが、職員によって、見守りに徹する、ついやってあげてしまうなど、考え方が分かれている様子が見受けられる。		高齢者の自立支援や生活リハビリについては、職員間で意思統一をする必要があると思われる。
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの思い・暮らし方の希望・意向は、日々の会話、回想話、経験談から生活歴、生活環境の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族等からの気づき意見、要望等を反映した介護計画が作成されている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は短期3ヶ月、長期6ヶ月毎に作成している。また家族からの要望や、状態の変化の際には随時計画の見直しをし、介護計画書を作り替えて、スタッフ全員で情報を共有している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体の病院と多機能性を活かした連携を行う一方、入居者を対象にした、協力病院への送迎や各種送迎サービス等の支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同系法人内のクリニックでの診療の他、必要に応じた検査や専門的な治療を要する場合は、同系の総合病院の最成病院で対応している。歯科はレンタルクリニックで受診している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	個々のターミナルケア(見取り介護、終末期ケア)については、入居契約時に話し合いをしており、急変時には同系総合病院の担当医と対応する段取りは出来ている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	接遇研修を通してプライバシー保護の確認をし、職員が利用者のプライバシーに関することを漏洩しないよう徹底している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	カラオケやレク時においても、各人の表情や状態に気配りし、自主性を尊重しながらも、毎日のその人らしい暮らしを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜作りは種まきから手入れ収穫、食卓に並ぶまで一緒にやっている。また他の食材についても献立作りから調理、片付けに至るまで、食事に関する一連の流れを入居者も参加している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間の入浴を除き、出来るかぎり入居者の希望に沿うようにし、午後2時から4時の間、一人20～30分かけて入浴を楽しんでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や盛り付け、洗濯物たたみ等自発的に一人ひとりの役割ごとを作り出すための、働きかけを行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣はバードウォッチングも出来る林に囲まれ、常に季節感を肌で味わえる場所で、天気の良い日には少人数のグループで散歩をするのが日課となっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠しないが、夜間は施錠している。掃きだし戸は全面ガラスのため入居者が衝突しないような工夫が期待される。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1度、消防署協力のもと防災訓練を行っている。また、月1回ホーム内での災害対策研修、勉強会を独自に行い周知徹底している。火災報知機は設置されている。現在、地域の自治体との協力を得るよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養・水分共、各人に応じた摂取量を勘案し、バランスの良い飲食を提供し、記録している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>シンプルなテーブルや椅子を配置し、趣味を楽しんだり気のあった入居者同士のおしゃべりをする場として生活しやすい空間となっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室への持込制限は、火気を除き特に無い。ベッド、枕棚等備え付けの物が多いためか使い慣れた私物を持ち込めるスペースの制限はあるが、写真を飾るなど入居者らしさが感じられる工夫をしている。</p>		